

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 アウトック・ソリッド	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.533	△RG 0.047	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：アウトック・ソリッド

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離
4-1/2 インチ

番

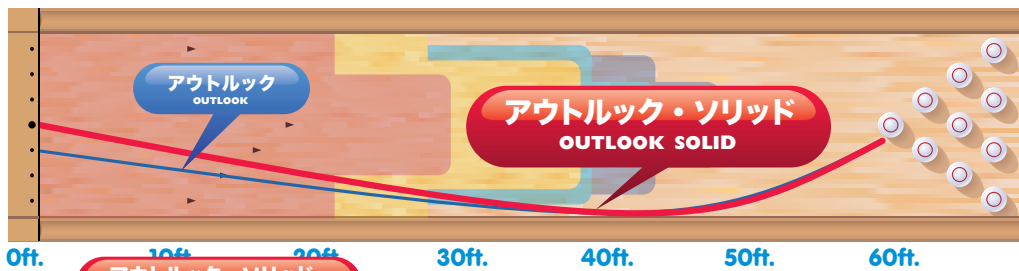
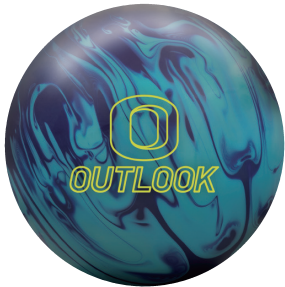
比較対照ボール：アウトック

フレアーの幅 インチ

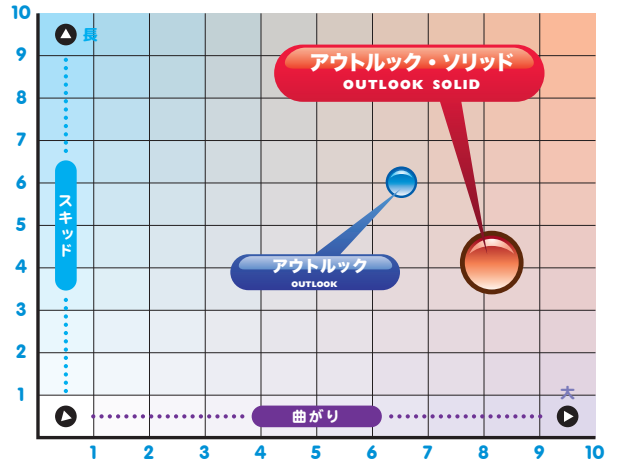
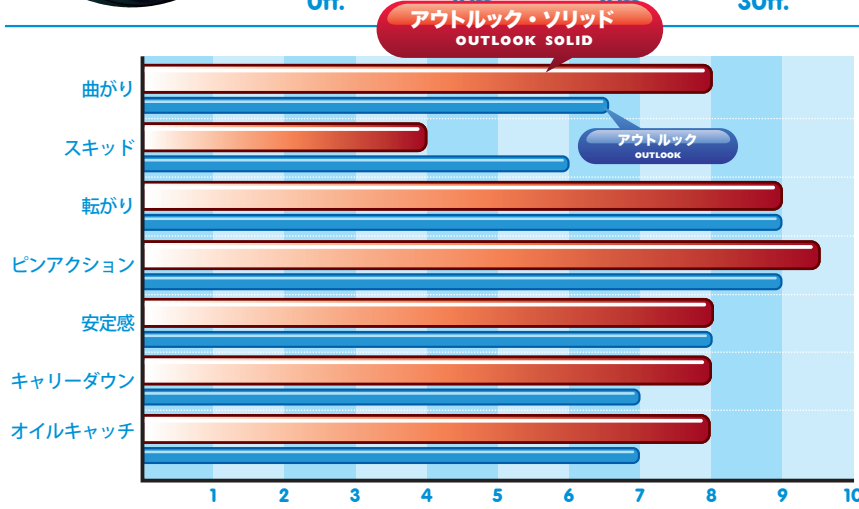
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離
4-1/2 インチ

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

今年4月に発売されたOUTLOOKは、COLUMBIA300が工場再編成により拠点をブラズウィック工場(メキシコ)に移設した第一号のボールで、ミディアムコンディションでベンチマーク的な役割で発売されました。旧EBI(Ebonite International)のウレタン素材からケミカル化合物まであらゆるテクノロジーを用いて作られたOUTLOOKは、ミディアムコンディションで完成度の高い製品だと思えます。今回のOUTLOOK SOLIDは、OUTLOOKに使用されたExiter Max PearlリアクティブのSolid素材、Exiter Max Solidへ変更し、AUTHORITY SOLIDと同様に今回のコロンビアはキャッチ系の二つのボールを発売、その一つになります。投球した第一印象は、Solid素材ゆえのキャッチ力は出していますが大きく幅をだす程のパフォーマンスには仕上がっていないことです。大きく曲がらないとダメなボールというネガティブな表現よりは、手前のオイルは厚く、先の幅が狭かったり、全体的にコントロールしなければならぬスポーティーなコンディションには圧倒的に投げやすく、「Solid素材で止まってくれる性能」という、スポーツコンディションが当たり前導入されるようになってきた大会で、一種今まで敬遠されてきた性能がスポーツコンディションでは絶対的な武器になります。ウレタンボールもその一種ですが、Solid素材の使い方も現在では多様化されてきています。初代のOUTLOOK同様、扱いやすさは前面にだし、手前の厚いオイル量とMidの安定したブレーキ感、何より軌道が等速に転がり描いてくれるリアクションは、安定感そのものと言えます。OUTLOOK同様のダイナミコア搭載ですが、私にはこのOUTLOOK SOLIDのほうが柔らかくピンに絡む感じが多く見受けられます。このOUTLOOK SOLIDは他のキャッチ系とは異なる、扱いやすさを前面にだした安定感を求め、もう一つのAUTHORITY SOLIDとキッチリ差別化を図ったボールです。

特記事項

COLUMBIAのキャッチ系の中で、キャッチの強さと入射角の鋭さを求めるならAUTHORITY SOLID。オイリーなコンディションで先の動きが暴れてほしくないコンディションに対峙する場合にはOUTLOOK SOLIDを選択すべきです。